



英国風倶楽部の外観
創立の志、脈々と息づく

桐生倶楽部

赤瓦の屋根に4本の煙突、その上部には小さな切妻屋根がのせられている。円形と方形の柱が配された重厚な玄関ポーチ、アーチ型の入り口と上げ下げ窓、スパニッシュ・コロニアル様式が特徴の建物である。

社団法人桐生倶楽部、その前身は明治33年（1900）に誕生した桐生懇話会である。当時の桐生の経済人たちが中心となって結成したもので、その活動は桐生の政治・経済・文化に大きな影響を与えた。桐生駐車場の改築、電話の設置、渡良瀬水力電気(株)の設立など、ここでの話し合いが桐生の産業近代化に直結した。商工会議所の開設を提唱したのもこの会だった。

懇話会は大正7年（1918）に桐生倶楽部へと組織変更し、翌8年に現在の会館が完成した。設計は当時著名な設計士として知られた清水巖氏、建築費は5万1千円、そのほとんどが有志の寄付によるものであり、桐生の経済人の力の大きさが窺われる。

“桐生の茶の間”とも評され、桐生を訪れる著名人をもてなす場として、郷土の政治、経済、文化を語る場として重要な役割を果たしてきた。特に戦後の活動は作家の南川潤や坂口安吾らの参加があり桐生の文化史にも貴重な一頁を記した。

内部は1階に特別室、会議室3室、食堂、遊戯室、2階に広間を配している。英国風倶楽部の外観を現在に伝え、社交クラブの性格を90年以上保ち続けていることは地方都市では例をみない。会館は現役で使われ、創立の精神は今でも脈々と息づいている。

- 住所／桐生市仲町2丁目9-36
- 電話／0277-45-2755
- 国登録有形文化財